

屋根補修へ業者出発

県内団体 延べ120人派遣

大阪府北部地震の被災地で復興支援のボランティア活動をするため、山梨県内の屋根工事業者らでつくる「災害復旧職人派遣協会」（石岡博実代表理事）のメンバーが24日、高槻市へ出発した。約2週間滞在し、屋根が壊れたり剥がれたりした家屋にブルーシートをかける作業をする。

期間中に現地で活動するのは同協会登録の屋根工事業者や大工、塗装業者ら延べ約120人。損壊した建物にブルーシートをかけて木材を打ち付けて固定し、家財道具を雨風から守るための応急処置を

する。

この日は、大月市猿橋町殿上の日本ステンレス工業にメンバーが集まり、木材や工具をトラックに積み込んだ。先発隊として7人が現地に向かい、25日に活動を始める。

同協会は2017年、災害時に被災地へ職人をスムーズに派遣するために設立された。石岡代表理事は「梅雨の時期で多くの人が雨漏りに困っていると聞いている。復興支援の手助けができるように活動したい」と話した。

〈市川和貴〉

資材を積み込む「災害復旧職人派遣協会」のメンバー 大月市猿橋町殿上

